

みやこのあと まち歩きマップ

～宮跡西編～



スタンプラリー
シート付き

ここは、都があった場所。
永い年月、数多くの物語が
積み重なった歴史の上を
あなたはいま歩いています。

山折り

復原事業情報館

令和4年3月に完成した大極門(南門)の復原工事のようすや技術、第一次大極殿院全体の復原計画をわかりやすく紹介し、復原事業について理解をより深めるための施設です。すでに完成した大極殿と大極門に加え、東西の楼閣、築地回廊、そして内庭広場を、順次整備することが計画されています。完成すれば、朱雀門から大極門を経て内庭広場に入り、大極殿を仰ぎ見るという体験を通して、当時の空間を理解することが可能になります。これらの復原は発掘成果の検討と、現存する当時の建築などを参考に、研究を重ねた結果なし得たもの。遺構の保護、現行の法律や環境条件を精査し、可能な限りの復原を実現させる技術の一つひとつを、建築資材の現物やレプリカ、伝統工具、映像による展示で体験的に学べば、古代建築の楽しみ方がさらに広がります。令和2年にユネスコ無形文化遺産にも登録された本瓦葺や鈔金具、縁付金箔製造などの「伝統建築工匠の技」を、存分に味わってください。

住 所 奈良市佐紀町239-3
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約20分
公開時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 ホームページをご覧ください
入 場 料 無料



復原事業情報館
ホームページ

平城宮跡資料館

奈良文化財研究所(奈文研)による、平城宮・京跡発掘調査の成果や、考古学・文化財科学の調査方法をわかりやすく展示する施設。こちらは昭和45年、平城宮跡の馬寮(馬を飼育・調教する役所)の跡に建てられました。入口すぐの床一面には、平城京エリアを空撮した現代の奈良の写真がお出迎え。常設展示では、奈文研のシンボルマークにもなっている「隼人の楯」をはじめとする出土品のほか、宮殿内部や役所を再現した実寸大のジオラマなどもあり、当時の貴族や役人の暮らしぶりを垣間見ることができます。また研究室コーナーでは、建築・考古・歴史・地質などの各領域の専門家チームによる最新の研究成果を解説しています。企画展や特別展も毎年数回開催されています。また、研究員の生の声を聴くことができる公式YouTube「なぶんけんチャンネル」もおすすめです。

住 所 奈良市佐紀町247-1
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約15分
公開時間 9:00~16:30(入館16:00まで)
休 館 日 月曜日(月曜が祝日の場合は翌平日)、年末年始
入 場 料 無料



平城宮跡資料館
ホームページ

西隆寺跡(ならファミリー他)

天平神護3(767)年、僧寺の西大寺に対する尼寺として、称徳天皇が造立を命じたのが西隆寺です。現在の近鉄大和西大寺駅北東、約250m四方の範囲に伽藍がありましたが、鎌倉時代に廃絶したと言われ、全容は明らかになっていません。昭和46年以降、開発工事に併せた発掘調査で金堂・塔・回廊・東門・築地塀などが見つかり、今もその痕跡が周辺に遺されています。中でも、ならファミリー北出入口(近鉄百貨店側)を出てすぐのスロープ下には、金堂の回廊(東北隅)の遺構が見られます。さらに建物内1階の北エスカレーター付近の柱に「東門跡」解説パネル、その前の売場床に柱の位置を示す12個の二重丸マークが。他にも、サンワシティ西大寺の入口前に「西隆寺の記憶」パネル、南都銀行西大寺支店の駐車場横に「築地塀跡」解説パネルがあります。これらのスポットを巡り、当時の境内をイメージしてみたいかがでしょう。

住 所 奈良市西大寺東町2-4-1(ならファミリー敷地)
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約3分
開館時間 10:00~20:00



YouTube なぶんけんチャンネル
「まほろしの尼寺 西隆寺」

西大寺

称徳天皇が、父・聖武天皇の東大寺創建に倣い開創した寺院。天平宝字8(764)年、藤原仲麻呂の反乱発覚の当日、称徳天皇は乱の鎮圧を祈願し四天王像の造立を誓願します。仲麻呂を伐した後、自ら像の鑄造に参加して実現させ、これが西大寺造立に繋がるのです。像は幾度となく厄災に見舞われましたが、足元の邪鬼たちは創建当初のもの。1300年踏み続けられながらも、当時の造形を伝えてくれています。奈良時代、南都七大寺のひとつとして隆盛を誇った西大寺でしたが、平安中期以降は衰退してしまいます。それを再興したのは、鎌倉時代の僧侶で、仏教で人の心を立て直したいと「興法利生」を掲げた叡尊上人でした。延応元(1239)年、完成を西大寺八幡神社にお礼し献茶した際、参詣の人々に湯茶を振る舞ったのが、今でも毎年1・4・10月に開催される「大茶盛式」の起源。大きな茶碗のお茶を助け合い廻し呑むことで、「一味和合」の精神を伝える行事です。

住 所 奈良市西大寺芝町1-1-5
アクセス 近鉄大和西大寺駅南口から徒歩約3分
公開時間 本堂、愛染堂、四王堂 8:30~16:30・聚宝館 9:00~16:30
※聚宝館 開館期間:1/15~2/4、4/20~5/10、10/25~11/15
入 場 料 入山拝観料 800円
(高校・中学生600円/小学生400円) ※団体料金設定あり



西大寺
ホームページ

西大寺八幡神社

奈良時代に創建され、明治期に神仏分離令が出されるまでは西大寺の鎮守社だった神社。誉田別命・氣長足姫命・玉依姫命を主祭神としてお祀りし、鎮守の森には住吉神社をはじめ、8社の境内社が鎮座しています。境内に拝殿や覆屋が存在せず、室町時代中期に造営された三間社流造の大きな本殿(重文)の全体像をよく見わたすことができる空間構成は、他に類がない珍しいもの。参道には2つの鳥居がありますが、二の鳥居は、小川をまたぐ花崗岩の一体造石橋とともに、境内で最も古い創建当時の建造物とされています。現在は氏子が神主を交代で担い、「愛宕山詣り」などの年中行事、祭祀の運営など、鎮守の文化を絶やすことなく継承に取り組まれています。また左座小屋と右座小屋は本来、社殿から見て左と右にありますが、こちらではいつの頃からか左右が逆転したのだとか。また提灯に描かれている紋は、左座は「鳩」、右座は「鳥居」と左右の座で異なりますが、その理由はわかっていないそうです。

住 所 奈良市西大寺芝町2-10
アクセス 近鉄大和西大寺駅南口から徒歩約10分
入 場 料 無料



西大寺八幡神社
ホームページ

秋篠寺

宝亀7(776)年、光仁天皇の勅願により建立された祈願寺で、桓武天皇の時代に伽藍が整備されました。平安末期にそのほとんどを火災で焼失しましたが、境内には今も、土壇や礎石など当時の姿を忍ばせる手がかりが遺されています。南門を抜けると広がる、美しい苔に包まれた庭をさらに進むと本堂(国宝)があります。こちらは、焼失を免れた講堂を鎌倉時代に本堂として修補したものの。その堂内には、本尊である薬師如来像(重文)をはじめ、日光菩薩・月光菩薩像(重文)、十二神将像、不動明王像と地藏菩薩像(重文)、帝釈天像(重文)と伎芸天像(重文)が安置され、すべて間近に拝観することができます。中でも伎芸天の美しさは有名ですが、頭部は創建当時の乾漆、体部は寄木で鎌倉時代の補作。少し首を傾げ、左肩を落とし、腰をひねるその姿は、見る角度によって違う表情を見せてくれます。二つの時代の合作により生まれた「動きのある」仏様は、芸能を司る女神として今も愛されています。

住 所 奈良市秋篠町757
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口より奈良交通「押熊」行バスで約6分「秋篠寺」下車すぐ
公開時間 9:30~16:30
入 場 料 500円 ※団体料金設定あり



復原事業情報館



平城宮跡資料館



西隆寺跡(ならファミリー他)



西大寺



西大寺八幡神社



秋篠寺

※拝観料金が必要となるスタンプポイントが含まれます。

